

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名：特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

1. 事業の概要

| | |
|---------------------|---|
| 事業名称 | BAYANIHAN～みんなで地域をつくっていこう～ |
| 事業の目的 | <p>① 散在している地域の課題に対して、地域で活躍できるバイリンガル人材を輩出すること(国籍問わず)。業務を遂行するため、日本語による読解力と叙述力をトレーニングすること。</p> <p>② 永住、定住傾向にあるフィリピン人に対して、「日本語学習」に加えて「生活情報」が得られるようにすること。</p> <p>③ 「生活者として」の新しい層であるフィリピン人青年(以下、定住フィリピン人青年)の将来を見据えた支援につながるよう、日本語学習とあわせて体験学習を取り入れること。また、各学習者が自身の限られた時間を活用し日本語学習ができるよう、自律学習の方法についてもアドバイスしていくこと。</p> <p>④ これまで連携してきた人や機関とともに培ってきたノウハウを地域に発信し、還元すること。連携により広がりを持たせること。</p> <p>⑤ フィリピン人学習者の既習事項やすでに身につけている能力の把握と、集まった声を集約するいっぽうで、日本社会側に対しても受け入れに関する意識調査を実施すること。双方の事情や声を整理し、定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと。</p> <p>⑥ 時流の中で求められる「生活者としての外国人」を取り巻く課題について対応するため、事業費の安定的な確保を検討していくこと。</p> |
| 日本語教育活動に関する地域の実情・課題 | <p>事業開始時に以下のような課題があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市に暮らすフィリピン人3,417人(2016年11月現在)のうち、約9割が身分資格での滞在である ・今後も家族の絆としての滞在が増加する見込みである ・フィリピン人の生活を取り巻く環境に寄り添う必要性がある。たとえば、税金納付への理解、労働環境、日本語学習など ・ニーズ、レディネスを把握した教室の必要性 ・フィリピン人青年に対する「日本社会の入り口」としての役割の必要性。(体験学習を実施する) ・地域の実情に対して、バイリンガル人材の現状と必要性 ・定住外国人支援について、土業との連携の意義 ・定住フィリピン人を日本社会へつなぐための調査の意義と必要性 ・日本語支援団体としての自立(活動を継続するための人材確保と資金調達) |
| 本事業の対象とする空白地域の状況 | |
| 事業内容の概要 | <p>●取組1「平日 ステップアップ日本語教室」 日本語能力初級後半程度の人を対象とし、今後、「バイリンガル能力を発揮して地域で活動したい」と考えている人たちにとって、その役目を担う教室とした。</p> <p>●取組2「バヤニハン日本語教室」 日本社会との接点が少ないフィリピン人に対して、社会の中で安定した生活を送るために必要な日本語を指導するとともに、日本人と意思疎通を図れる場を提供した。さらに、自律学習が捗るサポートにも応じた。</p> <p>●取組3「定住フィリピン人青年のための日本語教室」 フィリピンの青年層が、日本語を学ぶとともに社会体験が受けられる場を設けた。</p> <p>●取組4「公開講座 BAYANIHAN+(バヤニハンプラス)」国籍問わず、一般公開 専門家を招聘し、地域のキーパーソンや核となる機関、地域住民などが「生活者としての外国人」を取り巻く環境を学び、意見・情報交換を図った。これまでの活動を通して培ってきたノウハウや情報を、地域に還元し、ネットワークの裾野を広げた。</p> <p>●取組5「成果発表会(国籍問わず、一般公開)」 ① 青年たち自ら「学習や活動の成果発表」を行った。発表という体験を通して青年の自立と、日本人との交流を目的とした。 ② 「本事業の取組6で得られた結果を報告」した。</p> <p>※参加者の動員を見込むため、送り出し国フィリピンの現状や背景を知る人に登壇していただいた。</p> <p>※フィリピン人と受け入れる日本社会側の双方に対して、調査で得られた実情や思いを公開し、傾向を探った。これによりミスコミュニケーション、そして就職、進学などのミスマッチを防いだ。</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>●取組6「定住フィリピン人と日本社会をつなぐための調査委員会」(28年度の「定住外国人青年の教育支援のあり方、将来を考える」会を引き継いだ)</p> <p>①定住フィリピン人に対して定性調査を行うため指揮をとった。 ②フィリピン人を受け入れる日本社会側に対しての調査を行うための指揮をとった。 ③日本社会における位置づけとして、「定時制高校＝外国籍児童のセーフティネット」「外国人＝出稼ぎ」と捉えられてしまう現状を打破すべく、調査委員会の設置をもってフィリピン人を安定した形で日本社会に橋渡しするよう力を尽くした。</p> |
| 事業の実施期間 | 平成29年5月～平成30年3月（11か月間） |

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

| | | |
|--------|-------|----------------------------|
| 1 | 櫻井敬子 | 浜松市教育委員会 学校教育部指導課 教育相談グループ |
| 2 | 佐藤宏明 | 浜松市 企画庁調整部 国際課 |
| 3 | 鈴木エバ | 特定非営利活動法人フィリピンナガイサ |
| 4 | 清ルミ | 常葉大学 外国語学部 |
| 5 | 高貝亮 | 浜松綜合法律事務所 |
| 6 | 今中秀裕 | (公財)浜松国際交流協会 |
| 7 | 平本良一 | 平本良一行政書士事務所 |
| 8 | 湊健一郎 | 税理士法人黎明 祖父江会計事務所 |
| 9 | 松本義一 | 特定非営利活動法人フィリピンナガイサ |
| 10 | 山本智ひろ | 岡県知事直轄組織地域外交局多文化共生課 |
| オブザーバー | 辻村昌樹 | 浜松信用金庫 法人営業部 地域活性化課 |



【概要】

| 回数 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 出席者 | 議題及び検討内容 |
|----|------------------------------|-----|-----------------|---------------------------------|---|
| 1 | 平成29年6月21日 (水)9:00～11:00 | 2時間 | 第一伊藤ビル 4階会議室 | 湊、市川(櫻井代理)、平本、高貝、今中、佐藤、松本、鈴木、山本 | 委員会規約／正副委員長の選出／オブザーバーの出席について／委員挨拶／28年度報告／29年度予定 |
| 2 | 平成29年12月13日 (水)9:00～11:00 | 2時間 | 第一伊藤ビル 4階会議室 | 清、湊、市川(櫻井代理)、平本、高貝、今中、佐藤、松本、鈴木 | 中間報告(主に取組2, 3, 4)／30年度の文化庁事業応募について |
| 3 | 平成30年2月27日 (火)9:00～11:00 | 2時間 | 第一伊藤ビル 4階会議室 | 清、湊、櫻井、平本、高貝、今中、松本、鈴木 | 29年度報告 |

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

| | |
|------|---|
| 連携体制 | <p>遠州鉄道株式会社…6月17日体験学習 行政書士平本良一事務所…6月25日公開講座登壇 静岡県知事直轄組織地域外交局多文化共生課…静岡県西部地区危機管理課への橋渡し(7月16日公開講座のため) 公益財団法人浜松国際交流協会…7月16日、11月26日公開講座共催 フィリピン共和国大使館、在浜松ブラジル総領事館…7月16日公開講座後援 浜松市中消防署…10月14日中区クラス登壇 ユービーサポート株式会社…10月21日公開講座登壇 静岡県西部地区危機管理課…7月16日公開講座登壇株式会社アダストリア…11月21日体験学習 税理士法人黎明祖父江会計事務所、社会保険労務士湊健一郎事務所…11月26日公開講座登壇 浜松信用金庫個人営業部個人営業課…12月2日中区クラス登壇 浜松市中央図書館、浜松市南図書館、楽天株式会社、Media Do、立命館大学大学院文学研究科…2月10日公開講座登壇、協力 静岡県…3月10日調査報告会後援 浜松市…3月10日調査報告会後援 静岡県立大学国際関係学部高畑研究室…取組6全般 杉田工業株式会社、社会福祉法人天竜厚生会、三幸運輸株式会社…3月10日調査報告会登壇 浜松市南部協働センター…会場先行予約 浜松市内企業187社…取組6調査回答社 浜松市内在住フィリピン人231名…取組6調査回答者</p> |
|------|---|

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

| | |
|----------|---|
| 本事業の実施体制 | <p>半場和美…全事業の校正、外部とのやりとり、当法人スタッフに助言など 松本義一…取組2浜北クラスのコーディネートと指導、取組3青年クラスのコーディネートと指導、取組5のコーディネート、運営委員会と取組6の委員 松本三知代…取組1の指導、取組6の調査委員 鈴木エバ…取組2中区クラスの指導、取組4の通訳</p> |
|----------|---|

3. 各取組の報告

| ＜取組1＞ | | | | | | | | | |
|-----------------|-------------------------------|--------------------|--|------|----------------------------------|--------------------------------|--------|----------------|------|
| 取組1 | 取組の名称 | | 平日ステップアップ日本語教室 | | | | | | |
| | 取組の目標 | | <p>＜発掘＞</p> <p>①家庭の中に収まっていてあまり外で出ることが少ない主婦をはじめとする人たちに対して、日本語習得を通じて同胞や社会と接点を持ってもらうこと。</p> <p>②滞在年数が長く、日本語の基礎力がある人を対象に、さらにブラッシュアップしてもらうこと。</p> <p>③国籍問わず、「バイリンガル指導者をやってみたい」という人へ裾野を広げ、地域に「バイリンガル指導者」を輩出していくこと。</p> <p>＜育成＞</p> <p>④すでに地域で活躍している人材が、情報共有するとともに外国人の声を持ち寄り場として機能すること。</p> <p>＜確保＞</p> <p>⑤具体的には読解力と叙述力をアップするトレーニングを積むことで、コミュニケーション能力を高める（通訳、翻訳業務に直結する力をつける）</p> | | | | | | |
| | 取組の内容 | | <p>①「読解教材」を指針として⇒その中から該当する語彙と文法を抽出して学んだ⇒読解の内容とリンクしたアクティビティを行った（「読み取る、汲み取る力」から、「伝える力、運用する力」へ）</p> <p>②折に触れて自律学習を促すための情報提供や、eラーニングの具体的な活用について教授した。</p> | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> | 空白地域を含む場合、空白地域での活動 | | | | | | | |
| | 取組による体制整備 | | 社会課題解決、日本語教育、多文化共生社会実現といった観点から、キーパーソンとなるバイリンガル人材の存在は欠かせない。当該クラスはそのような人材を「発掘」「育成」をしていった。学習者の中から「同胞へ支援したいと考えている者や多文化共生社会構築に資する人材」を見出し、事務局と良好な信頼関係を築くことで人材確保につなげていった。確保できる人数を増やして、当会の活動と地域のバイリンガル人材を必要とする機関へ橋渡ししていった。 | | | | | | |
| | 取組による日本語能力の向上 | | <p>●これまで独学で日本語を学んでいた人で、中級以上になれない人のために勉強のノウハウを学べる場とした。</p> <p>●「学習ニーズ」に応じるとともに、運用力をつけるための学習を提供した。</p> <p>●教室の時間以外にも自律学習ができるよう、eラーニングを使った学習方法も折に触れて提供した。</p> <p>●「地域におけるバイリンガル人材に求められている資質は何か」を知り、日本語学習意欲の向上を図った。</p> | | | | | | |
| | 参加対象者 | | ●フィリピン人をはじめとする「生活者」としての外国人（国籍問わず） ●日本語能力初級後半～中級前半 | | | 参加者数 （内 外国人数） | | 25人 （ 25 人） | |
| | 広報及び募集方法 | | 当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人（クチコミ）、フィリピンレストラン、教会など、過去に当会が主催する事業でボランティアした人など | | | | | | |
| | 開催時間数 | | 総時間 24 時間（空白地域 時間） | | | | | | |
| | 主な連携・協働先 | | 当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人（クチコミ）、フィリピンレストラン、教会など、過去に当会が主催する事業でボランティアした人など | | | | | | |
| 参加者の出身・国別内訳（人数） | | 中国 | ベトナム | ネパール | 韓国 | フィリピン | インドネシア | タイ | ブラジル |
| | | 2 | | | 2 | 19 | | 1 | |
| | | 台湾(1名) | | | | | | | |
| 実施内容 | | | | | | | | | |
| 回数 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 受講者数 | 取組テーマ | 内容 | 指導者名 | 補助者名 | |
| 1 | 平成20年9月1日 (金)13:30～15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 4 | オリエンテーション 日本語読み書きの たねユニット1 | 読みましょう1「天国という意味です」、 書きましょう1 | 松本三知代 | 平野理絵 | |
| 2 | 平成29年9月8日 (金)13:30～15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 4 | 日本語読み書きの たねユニット2 | 読みましょう1「朝ごはん、昼ごはん」、 書きましょう1 | 松本三知代 | 平野理絵 | |
| 3 | 平成29年9月15日 (金)13:30～15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 4 | 日本語読み書きの たねユニット3 | 読みましょう1「ちょっと買物に」、 書きましょう2 | 松本三知代 | 平野理絵 | |
| 4 | 平成29年9月22日 (金)13:30～15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 4 | 日本語読み書きの たねユニット4 | 読みましょう1「指の運動」、 書きましょう1 | 松本三知代 | 平野理絵 | |
| 5 | 平成29年9月29日 (金)13:30～15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 4 | 日本語読み書きの たねユニット5 | 読みましょう1「サンフランシスコ」、 書きましょう1 | 松本三知代 | 平野理絵 | |
| 6 | 平成29年10月6日 (金)13:30～15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 5 | 日本語読み書きの たねユニット6 | 読みましょう2「チーちゃん」、 書きましょう1 | 松本三知代 | 平野理絵 | |
| 7 | 平成29年10月13日 (金)13:30～15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 5 | 日本語読み書きの たねユニット7 | 読みましょう3「ちょっと健康法」、 書きましょう2 | 松本三知代 | 平野理絵 | |

| | | | | | | | | |
|----|-------------------------------|-----|----------|---|----------------------|------------------------------|-------|------|
| 8 | 平成29年10月20日 (金)13:30~15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 6 | 日本語読み書きの たねユニット8 | 読みましょう1「朝ごはん、昼ごはん」、書きましょう7 | 松本三知代 | 平野理絵 |
| 9 | 平成29年10月27日 (金)13:30~15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 4 | 日本語読み書きの たねユニット9 | 読みましょう1「マスクの春」、書きましょう1 | 松本三知代 | 平野理絵 |
| 10 | 平成29年11月10日 (金)13:30~15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 4 | 日本語読み書きの たねユニット10 | 読みましょう1「おにぎり・パン・カレー」、書きましょう1 | 松本三知代 | 平野理絵 |
| 11 | 平成29年11月17日 (金)13:30~15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 4 | 日本語読み書きの たねユニット11 | 読みましょう2「週末サッカー」、書きましょう2 | 松本三知代 | 平野理絵 |
| 12 | 平成30年2月17日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 4 | 生活漢字、読解 | 個々の学習のニーズに対応 | 松本三知代 | 半場和美 |
| 13 | 平成30年2月24日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 5 | 生活漢字、読解 | 個々の学習のニーズに対応 | 松本三知代 | 半場和美 |
| 14 | 平成30年3月3日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 4 | 生活漢字、読解 | 個々の学習のニーズに対応 | 松本三知代 | 半場和美 |
| 15 | 平成30年3月10日 (土)13:30~15:00 | 1.5 | 南部協働センター | 6 | 読解 | タブレットを使って、JLPTサンプル問題に挑戦 | 松本三知代 | 半場和美 |

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第10回 29年11月10日】

通常、当クラスでは「日本語読み書きのたね」を使って読解問題に挑戦しているが、若い学習者たち各自が普段使っている教材(「まるごと日本のことばと文化」や日本語能力検定試験の問題集など)を持ち込んでおり、そういった質問にも応える形で授業を進めた。



○取組事例②

【第13回 30年2月24日】

学習者のレベルがまちまちだったこと、学習ニーズが揃わなかったため、それぞれに対応した。漢字を勉強したい者、日常会話を学びたい者など、講師が対応できないところはピア学習をしてもらったり、タブレットを使って学んでもらい、講師はそれらを確認して回った。



(2) 目標の達成状況・成果

講師に書いてもらっていた、授業後の記録から下記抜粋。

- ・読解について、読むのは早いですが、問題に対応した箇所を正確に読み取るのは難しい様子。また、理解しているけれど、説明を求めると本当は理解できているのに、アウトプットの語彙が少ないため、うまく表現できないような場面もあった。
- ・サバイバルで日本語に慣れ親しんできた方が多く、書いてみるとうまく表現できないことがある。(母語干渉も大きい)
- ・書くことを負担に感じている人が多い様子。それを添削したり発表まで求めると、その場では書かずに「家でじっくり書いてきたい(書くことをまとめる時間が欲しい)」という要望も多く、授業時間内に完了しないこともあった。実際には次の時間に確実に来られないこともあり、この対応は難しかった。(結局未提出となってしまうこともあった)
- ・話し言葉と書き言葉の用途が混ざって理解されてしまっているようなので、整理する必要がある。
- ・来られる日は積極的に授業に参加してくれて、質疑も意欲的にしていたのでとても良かった。学習意欲の高い人たちが集まってくれた。
- ・ベテラン講師が担当してくれたおかげで、学習者の個々のレベルに合わせた対応をしてもらえた。それぞれが持つ能力より少し高い授業内容を提供し、対応できた点がよかった。
- ・「日本語ができるようになったら何をしたいか」という、日本語を学ぶ目的を聞いて確認することで学習意欲を引き出すことに努めた。
- ・このクラスで学んだことを、「パヤニハクラスで自分が講師になったら使ってみたい」と、さっそく教授項目に加えてくれたスタッフもいた。
- ・「このクラスでは、自分の間違いを直してくれるので助かります」という感想が良く聞かれました。

(3) 今後の改善点について

学習者の参加人数が不安定だった。「バイリンガル指導者のため」の取組としても、すでにいくつもの現場を掛け持ちしている人が教室に安定してくることはとても難しい状況だった。今後はタブレット上で学習できる環境を提供するなど、考えていく必要がある。本地域におけるキーパーソンのおほとんどは小中学校の外国語支援員でもあるので、教育委員会などに働きかけ、そういった人材が学校支援以外のサポートにも携わる現状を把握してもらえるとよい。30年度以降の事業に取り入れていく。

<取組2>

| 取組2 | 取組の名称 | | バヤニハン日本語教室(中区クラス、浜北クラス) | | | | | | |
|-----------------|------------------------------|--------------------|--|------------------|---------|------------------------------|--------|------|------|
| | 取組の目標 | | ①「日本語教室に行ったことがない」「地域に日本語教室があるのを知らない」「自分の生活リズムとニーズに合う教室がない」という人たちのニーズと学習意欲を引き出し、継続した日本語学習が行えるように促すこと(修了後は地域のほかの日本語教室も紹介する)。 ②臨場感や自己学習の提示などを通じて、「座学+α」の付加価値を持った教室を展開すること。 ③バイリンガル指導者による教室運営能力を高めること。 ④クラスは、地域の日本人住民の生涯学習の場としても役割を担うこと。 ⑤参加者のレディネス、ニーズ調査の場としても機能すること。 | | | | | | |
| | 取組の内容 | | 浜北区クラス(5回) ・就職活動をする上で必要とする知識・情報、日本語を学んだ。 (求人票の見方、求職票の書き方) ・スマホアプリを使った自己学習のノウハウを学んだ。 中区クラス(10回) 学習者にニーズを聞いて、テーマを決めた。テーマ選出には「文化庁『生活上の行為の事例』とこれまで当会が文化庁事業で行ってきた授業テーマを参考にした。これに加えて、あらたなテーマとして「家計の収支計画について」を加えた。 | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> | 空白地域を含む場合、空白地域での活動 | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> | 取組による体制整備 | 浜松市中消防署…10月14日登壇／浜松信用金庫個人営業部個人営業課…12月2日登壇 | | | | | | |
| | 取組による日本語能力の向上 | | 身に着いたこと、学んだことは、次の通りである。 仕事を探すときに必要な日本語、自己紹介を日本語で行うこと、公共交通機関を利用する際に必要な日本語、学校行事や手紙を日本語で読むこと、各種申込書の書き方、診察室で医師との会話、電話の掛け方、119番通報訓練、買物(客と従業員)で使われる会話、銀行で必要な日本語 | | | | | | |
| | 参加対象者 | | 定住フィリピン人、日本人ボランティア | 参加者数 (内 外国人数) | | 53人 (40人) | | | |
| | 広報及び募集方法 | | 当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人(クチコミ)、フィリピンレストラン、教会など、過去に当会が主催する事業でボランティアした人、企業、定時制高校など | | | | | | |
| | 開催時間数 | | 総時間 32.5 時間(空白地域時間) (中区20時間／浜北区12.5時間) | | | | | | |
| | 主な連携・協働先 | | 浜松市中消防署…10月14日登壇／浜松信用金庫個人営業部個人営業課…12月2日登壇 | | | | | | |
| 参加者の出身・国別内訳(人数) | | 中国 | ベトナム | ネパール | 韓国 | フィリピン | インドネシア | タイ | ブラジル |
| | | | | | | 50 | | | |
| | | 日本国3人 | | | | | | | |
| 実施内容 | | | | | | | | | |
| 回数 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 受講者数 | 取組テーマ | 内容 | 指導者名 | 補助者名 | |
| 1 | 平成29年7月1日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 6 | 自己紹介 | 基本的な自己紹介 | 鈴木エバ | 半場和美 | |
| 2 | 平成29年7月29日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 6 | 家族の紹介 | ファミリーツリーを作成し、家族についてクラスの友達に語る | 溝部エース | 半場和美 | |
| 3 | 平成29年9月2日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 6 | 公共交通機関 | 近隣のバスや電車の乗り方、バス停やバス路線の名前 | 半場和美 | 半場和美 | |
| 4 | 平成29年9月9日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 10 | 学校 | 学校の年間行事の意味、学校で配布される手紙を読む | 鈴木エバ | 半場和美 | |
| 5 | 平成29年9月16日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 18 | 申込書の書き方 | 行政や学校で記入する申込書の記入、住所を漢字で書く | 白方ジョイ | 高井マリ | |

| | | | | | | | | |
|----|-------------------------------|-----|----------|----|----------|---------------------------------------|-----------------------|------|
| 6 | 平成29年9月30日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 25 | 病院 | 医師との会話(症状の聞かれ方、言い方) | 半場和美 | 高井マリ |
| 7 | 平成29年10月7日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 22 | 電話の掛け方 | 職場や学校(保護者として)に電話をかけるときに使う日本語 | 鈴木エバ | 高井マリ |
| 8 | 平成29年10月14日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 18 | 119番通報訓練 | 日本語による119番通報訓練 | 半場和美、 浜松市南消防署員 | 高井マリ |
| 9 | 平成29年11月4日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 5 | 買物、注文 | ファーストフード店での注文の仕方と店員の使う日本語 | 半場和美 | 高井マリ |
| 10 | 平成29年12月2日 (土)13:30~15:30 | 2 | 南部協働センター | 19 | 家計の収支 | 家族の節目のイベントにかかる資金について、日本語でワークシートに記入 | 鈴木エバ、 今坂有里(浜松信用金庫) | 高井マリ |
| 11 | 平成29年7月16日 (日)13:30~16:00 | 2.5 | 浜名協働センター | 6 | 仕事の探し方① | 求人情報誌の読み方や記号の意味 | 松本義一 | 高井マリ |
| 12 | 平成29年7月23日 (日)13:30~16:00 | 2.5 | 浜名協働センター | 7 | 仕事の探し方② | 履歴書の書き方 | 松本義一 | 高井マリ |
| 13 | 平成29年8月20日 (日)13:30~16:00 | 2.5 | 浜名協働センター | 8 | 自律学習① | 日本語の勉強予定を考える。目標、勉強時間、年間予定 | 松本義一 | 高井マリ |
| 14 | 平成29年9月3日 (日)11:30~16:00 | 2.5 | 浜名協働センター | 8 | 自律学習② | 勉強する方法について、各自の方法をシェアする。自分のテキストを持ち寄るなど | 松本義一 | 高井マリ |
| 15 | 平成29年9月24日 (日)13:30~16:00 | 2.5 | 浜名協働センター | 6 | 自律学習③ | 実際に本屋に行き、テキストを探す | 松本義一 | 高井マリ |

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第8回 29年10月14日】

学習者たちはイラストカードの中から自分でシチュエーションを決めて、そのあと消防署員を相手に通報訓練を行った。実際に消防署の方を電話の相手に練習することで、日本語に自信がない学習者も最後まであきらめずに状況を説明することができた。デモ練習の最後の1名は、実際に119番(センター)へ電話をかけた。携帯をスピーカーホンにして、全員でそのやり取りを見守ることで、クラス全員が息をのみ、緊張感に包まれた時間となった。この日の練習は皆にとって、「いざというとき」の心の備えに繋がったものと思う。



○取組事例②

【第10回 29年12月2日】

ライフステージにかかるお金の計画について考えた。人生には節目ごとに大きなイベント、ステージが訪れる(結婚、家や車の購入、子供の教育資金、自身の老後など)。そこで、「お金のはなし～ライフプランを考える～」という内容を、浜松信用金庫様をお願いした。ワークシートを使って、自分や家族の年齢や予想されるライフステージを書き込んだ。

それらを見ながら、講師から「貯金をする必要があると思うか、貯金の目的は何か」などの質問を受け、クラスで考えた。また近年、外国人の中にも家を購入する方が増えてきていることを受け、「ローン返済は月々7～8万円程度と思って購入する人が多いが、実際には税金がかかり、そのことに苦労している方も多い」「ローンは借りられる額ではなく、返せる額を基準に検討しよう」という話がされた。最後に皆が考える節約方法を発表して終えた。



(2) 目標の達成状況・成果

回答に多かったもの

- ・分からないとき、個別に対応してくれることがあって助かった。
- ・楽しかった。
- ・先生が優しくかった。
- ・もっと回数が多いといい。
- ・ひらがな、カタカナの勉強ができて良かった。
- ・初めて日本語教室に参加したが、わかりやすく説明してくれてよかった。
- ・クラスの雰囲気が良い。
- ・自己紹介や申込書が書けるようになってよかった。
- ・このクラスのトピックがよい。

(3) 今後の改善点について

浜北区と東区に学習者が多いことを把握しているが、当法人の人員体制から、そちらまで教室を設置することが難しく、中区にて教室を実施した。そのため、浜北区と東区からの参加者が少なかった。浜北区と東区の生徒も本事業に取り込んでいけるようにしたい。このクラスの生徒は話すことは得意だが、読み書きが苦手という人が多い。けれども読み書きを学びたい声も良く聞かれることから、30年度にはバランスよく読む、書く、聞く、話すを取り入れていきたい。

<取組3>

| | | | | | | | | | |
|-----------------|------------------------------|--------------------|--|------------------|-----------|----------------------|--------|------|------|
| 取組3 | 取組の名称 | | 定住フィリピン人青年のための日本語教室 | | | | | | |
| | 取組の目標 | | <p>呼び寄せにより来日したフィリピン人青年に、日本語教室を実施する。日本語教室を通して生活に必要な日本語と自律学習の方法、生活情報を教授し、更に日本語教室で学んだことを体験する機会を設置し日本での生活のスタートを支援する。</p> <p>①家に閉じこもっていて外に出ることが少ない青年に対して、同胞や社会と接点を持ってもらう。 ②生活に必要な日本語を身に付けてもらう。 ③日本語の学習方法(自律学習)を学ぶ。 ④日本での生活に必要な知識を学ぶことに加えて、「生活に必要な情報を自ら得る方法」を知り、その力をつける。 ⑤社会見学・体験学習を実施し、青年の自発的な行動を促し、自立へと繋げる。</p> | | | | | | |
| | 取組の内容 | | <p>呼び寄せにより来日したフィリピン人青年に、日本語教室を実施した。日本語教室を通して生活に必要な日本語と生活情報を教授し、更に日本語教室で学んだことを体験する機会を設置し日本での生活のスタートを支援した。</p> <p>1. 授業構成 オリエンテーションや取組5「定住フィリピン人青年のための日本語教室 取組発表会」準備の他、下記トピックを実施。</p> <p>第1週目 トピックに関する日本語教授 2.5時間 第2週目 体験学習の事前準備 2.5時間 第3週目 トピックに関する体験学習 3時間 第4週目 体験学習の振り返り 2.5時間</p> <p>2. 各月のトピック 5月 オリエンテーション 6月 公共交通機関を利用しよう 7月 旅行計画を考えよう 9月 自分に合った日本語教室を探そう 11月 仕事の体験学習 12月 ものづくり体験 1月 施設の利用方法 2月 お得に買い物しよう</p> | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> | 空白地域を含む場合、空白地域での活動 | | | | | | | |
| | 取組による体制整備 | | <p>体験学習(社会見学)の実施による協力者・協力団体との連携により以下の体制整備を行った。</p> <p>1. フィリピン人青年の存在を社会にアピールし、日本語支援の必要性を顕在化する。 2. 来日直後のフィリピン人青年と既に定住しているフィリピン人青年の交流の機会を設置する。 3. 社会見学(体験学習)の必要性を社会に訴え、外国人生活者の日本語教育の一環として協力者を募る。</p> | | | | | | |
| | 取組による日本語能力の向上 | | <p>●来日直後に必要となる日本語に優先順位をつけてカリキュラムを組んだ。これにより、フィリピン人青年たちは実生活の中において「すぐに使い、実践すること」ができた。</p> <p>●日本での生活をスタートするために必要な知識や情報を、媒介語を通じて提供した。これによりフィリピン人青年たちは、他にはどこでも学べない細かいニュアンスを掴み、体得できた。</p> <p>●カリキュラムはテーマに沿って、体験学習型の社会科見学を取り入れた。これにより、フィリピン人青年たちは座学の日本語学習だけでは学べない擬似体験をすることができた。この体験が自信につながり、実生活においても行動に活かすことができた。</p> | | | | | | |
| | 参加対象者 | | フィリピンにルーツを持つ若者 | 参加者数 (内 外国人数) | | 36人 (36 人) | | | |
| | 広報及び募集方法 | | ハイスニュース、ナガイサHP、ナガイサ広報誌、磐田国際交流協会広報誌、新聞社など | | | | | | |
| | 開催時間数 | | 総時間 77.5 時間(空白地域時間) | | | | | | |
| | 主な連携・協働先 | | 遠州鉄道株式会社、株式会社アダストリア…体験学習講師 | | | | | | |
| 参加者の出身・国別内訳(人数) | | 中国 | ベトナム | ネパール | 韓国 | フィリピン | インドネシア | タイ | ブラジル |
| | | | | | | 36 | | | |
| 実施内容 | | | | | | | | | |
| 回数 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 受講者数 | 取組テーマ | 内容 | 指導者名 | 補助者名 | |
| 1 | 平成29年5月27日 (土)13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 7 | オリエンテーション | ①教室の紹介 ②名前・住所の書き方 | 松本義一 | 高井マリ | |

| | | | | | | | | |
|----|--------------------------------|-----|----------------|----|---|--|------|----------------|
| 2 | 平成29年6月3日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 5 | 6月トピック「公共交通機関」 電車でU-ToCに行く方法を学ぼう | ①日本の公共交通機関。 ②電車で行く主要施設を知る。 ③U-ToCへの行き方を学ぶ。 | 松本義一 | 高井マリ |
| 3 | 平成29年6月10日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 7 | 遠鉄バスでHICEに行く方法を学ぼう | ①浜松市内のバス(遠鉄バス・くるる) ②バスで行けるところを知る。 ③HICEへ行く方法を学ぶ。 | 松本義一 | 高井マリ |
| 4 | 平成29年6月17日 (土) 13:30~16:00 | 3 | 浜松駅周辺 | 7 | 体験学習「バスに乗ってHICEに行こう」 | ①ナイスバスを作る ②バス乗り場を探して、バスに乗る ③目的地到着後、帰りは電車で帰る。 | 松本義一 | 高井マリ |
| 5 | 平成29年6月24日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 8 | 体験学習の振り返り | ①体験学習で探した「わからない単語」共有 ②体験して疑問に思ったことを共有 | 松本義一 | 高井マリ |
| 6 | 平成29年7月1日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 8 | 7月トピック「旅行計画を考えよう」 | ①講師作成の旅行計画表を見ながら、旅行の話 ②各自で浜松市内の観光名所を調べる | 松本義一 | 高井マリ |
| 7 | 平成29年7月8日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 10 | 浜松市内の観光名所 | ①浜松市内の観光名所の発表 ②体験授業先を選ぶ | 松本義一 | 高井マリ |
| 8 | 平成29年7月15日 (土) 13:30~16:00 | 3 | うなぎパイファクトリー | 11 | 体験学習「浜松市の観光」 | ①うなぎパイファクトリー視察 ②タスクシートを仕上げる | 松本義一 | 高井マリ |
| 9 | 平成29年7月22日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 10 | 体験学習振り返り&旅行計画を考えよう | ①体験学習の振り返り ②自分が行きたい旅行先を検討する。 ③次回、旅行計画を立てることを伝える | 松本義一 | 高井マリ |
| 10 | 平成29年7月29日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 6 | 旅行計画を発表しよう | ①旅行計画作成シートの説明 ②旅行計画作成シートを完成させる ③旅行計画の発表 | 松本義一 | 高井マリ |
| 11 | 平成29年8月26日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 10 | 9月トピック「自分に合った日本語教室を知ろう」 浜松市内の日本語教室を知ろう | ①浜松市内で行われている日本語教室のチラシをみよう。 ②チラシの見方、チラシの日本語(初級レベル、会話などの日本語) | 松本義一 | 高井マリ |
| 12 | 平成29年9月2日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 10 | 見学申込電話の掛け方 | ①申込方法を知る ②電話での見学申込方法 日本語会話 ③見学先アンケート→浜松日本語学院 | 松本義一 | 高井マリ |
| 13 | 平成29年9月9日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 10 | プロジェクトワーク「自分自身の理想の日本語教室チラシを作ろう」 | ①見本チラシを見て、作成の流れ説明 ②自分が何を勉強したいかを考えながら、理想の教室チラシを作成する ③理想の日本語教室チラシの発表 | 松本義一 | 高井マリ |
| 14 | 平成29年10月28日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 4 | 11月トピック「仕事の体験学習」 | ①進路について ②進学と就職 | 松本義一 | 高井マリ |
| 15 | 平成29年11月4日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 14 | 日本で働くために | ①仕事を探す方法として何があるか ②ハローワークとは ③登録用紙の記入方法 | 松本義一 | 高井マリ |
| 16 | 平成29年11月11日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 23 | 職場での挨拶・自己紹介 | ①挨拶の練習 ②自己紹介の練習 | 松本義一 | 高井マリ |
| 17 | 平成29年11月18日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 13 | 体験学習の準備 | ①体験学習先を知る ②接客用語の確認 | 松本義一 | 高井マリ |
| 18 | 平成29年11月21日 (土) 13:30~16:00 | 6 | グローバルワーク市野イオン店 | 4 | 体験学習「服屋での仕事体験」 | ①挨拶の仕方・マナー ②接客体験 ③服装のコーディネート | 松本義一 | 高井マリ 中村グレイス |
| 19 | 平成29年11月25日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 7 | 体験学習の振り返り | ①学んだことの整理・共有 ②わからなかった言葉の確認 | 松本義一 | 高井マリ |
| 20 | 平成29年12月9日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 12 | 12月トピック「ものづくり体験」 | ①浜松市は「ものづくりの街」 ②ものづくりとは ③浜松市のものづくりを調べよう | 松本義一 | 高井マリ |
| 21 | 平成29年12月16日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 17 | ものづくり体験 | ①ものづくりとして「紙粘土」でクリスマスの飾りを作ろう ②「ものづくり」で使う日本語 動詞を中心に | 松本義一 | 高井マリ |
| 22 | 平成30年1月13日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 14 | 1月トピック「施設の利用方法」 | ①浜松市の施設について ②施設の利用方法 ③ホームページで予約 | 松本義一 | 高井マリ |
| 23 | 平成30年1月20日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 11 | 施設を予約しよう | ①窓口での申し込み方法 ②申し込み用紙の記入 ③南部協働センターの窓口で申込体験 | 松本義一 | 高井マリ |
| 24 | 平成30年1月27日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 9 | 施設利用時のマナー | ①施設利用時の注意事項 ②ルール、マナー、片付けの方法 ③南部協働センターの施設を見て回り、気をつける点を確認 | 松本義一 | 高井マリ |
| 25 | 平成30年2月3日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 6 | 2月トピック「お得に買い物しよう」 | ①買い物チラシを見てみよう ②わからない言葉、大事な言葉 ③日本の税金 | 松本義一 | 高井マリ |
| 26 | 平成30年2月17日 (土) 13:30~16:00 | 3 | 福祉交流センター | 7 | 体験学習「スズキブラザ」 | 12月トピックの体験学習 ①浜松の代表的なものづくり、車の工場見学 ②タスクシート | 松本義一 | 高井マリ |
| 27 | 平成30年2月24日 (土) 13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 5 | 体験授業の振り返り | ①タスクシートの確認 ②学んだことの共有 | 松本義一 | 高井マリ |

| | | | | | | | | |
|----|------------------------------|-----|-------------|----|--------------|---|------|------|
| 28 | 平成30年3月3日 (土)13:30~16:00 | 3 | 南部協働センター | 10 | 体験学習「浜松科学館」 | 1月トピックの体験授業 ①ホームページで施設を確認 ②タスクシート実施 | 松本義一 | 高井マリ |
| 29 | 平成30年3月10日 (土)13:30~16:00 | 2.5 | 南部協働センター | 10 | 取組発表会のポスター作成 | ①今年度を振り返り、ポスター作成 | 松本義一 | 高井マリ |
| 30 | 平成30年3月17日 (土)13:30~16:00 | 2.5 | 浜松多文化共生センター | 8 | 1年間を振り返ろう | ①振り返りスピーチ ②終了式 | 松本義一 | 高井マリ |

(1)特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第18回 平成29年11月21日】体験授業「服屋での仕事体験」
11月トピック「仕事の体験学習」は下記の目的を達成できるように考えられている。目標A,B,Cを実施した上でDの体験学習を実施した。

●目的：日本で「働く」ことを考える。全5回

●副次的目的：

- A 将来の職業について考える機会の提供
- B 仕事のマナーを学ぶ
- C 仕事での日本語を学び、実際に使用する場を提供する。
- D 店頭で接客業の体験(日本語学習+体験授業)

●授業スタイル：

- ・教授言語：日本語と英語、タガログ語のミックス
- ・生教材を多く使用する。

●ファイルとノートの利用方法

- ・体験授業で必要となる単語に写真やヒントを添えたものをファイルにするよう指示し、持たせた。
→日常生活において、一人で行動する際に役立つようなファイルを作成し持たせるように心掛けた。
- ・ノートには重要単語や図、表などを記入し、持ち帰ってノートを見て活用できるようにする。

●実施内容【第18回 平成29年11月21日】体験授業「服屋での仕事体験」

- ①自己紹介
- ②店内見学
- ③会社のコンセプト・ブランドロゴについて
- ④基本的な挨拶と接客マナーの練習
- ⑤接客ロールプレイ「声の掛け方」「褒め方」
- ⑥トルソーへのコーディネート体験
- ⑦質疑応答



○取組事例②

【第4回 平成28年6月18日】体験授業「バスに乗ってHICEに行こう」
6月トピック「公共交通機関」は下記の目的を達成できるように考えられている。目標A,B,Cを実施した上でDの体験学習を実施した。

●目的：1人で公共交通機関に乗れるようになる。全4回

●副次的目的：

- A 浜松市の公共交通機関の種類を知る。
- B 浜松市内の地理を知る。どこに何があるか。～区に～がある。
- C 目的の場所に行くには、どの公共交通機関を使えば行けるかわかる。
- D 公共交通機関を利用し、目的地に行ける。(日本語学習+体験授業)

●授業スタイル：

- ・教授言語：日本語と英語、タガログ語のミックス
- ・表記：日本語とローマ字のミックス
- ・生教材を多く使用する。

●ファイルとノートの利用方法

- ・ファイルには体験授業で必要となる単語のヒントを載せる。写真付き。
＝ファイルがあれば、自分一人で体験授業で実施したことを行えるよう。という姿が理想。
- ・ノートには重要単語や図、表などを記入し、持ち帰ってノートを見て活用できるようにする。

●実施内容【第6回 平成29年6月17日】体験授業「バスに乗ってHICEに行こう」

- ・体験授業でのタスクシート配布
タスク①ナイスパス(電子マネーカード)を遠鉄窓口で作成し、チャージすること
タスク②15:00までにバスでHICEまで行くこと
タスク③体験授業中にわからなかった日本語(わからなくて困った)を10個書き写す



(2) 目標の達成状況・成果

・掲げた取組目標「社会体験を逃しているフィリピンの青年層が、日本語の教示とともに日本社会での体験(浜松市内の「人」と「場所」に繋がる)が受けられる場を設ける。」に対する成果として、以下の点が挙げられる。

1. 日本社会での体験が受けられる場の創出

全7トピック中、4箇所体験学習を実施することができた。体験学習の中では、「自分でできることを増やす」という目標を掲げ、各体験授業ごとに生徒へのタスクを設け、これまで学んできた日本語や知識・情報を元に主体的にチャレンジする体験を実施することができた。

2. 浜松市内の「人」と「場所」に繋がる機会の創出

上記の体験授業は今後フィリピン人青年が浜松市で生活する上で利用する機会の多い場所を選び実施した。体験事業によりフィリピン人青年とそこで働く人々や場所との繋がりを創出できた。また、衣料販売店や鉄道会社などの民間企業にフィリピン人青年の存在をアピールすることができ、今後彼らが生活者＝消費者となることを伝えることができた。

3. 学習者のアンケート結果

アンケート結果から、学習者は「プログラムに満足しており、日本での生活に役立った。」と考えていることがわかった。これについては高い出席率からも見て取れる。全30回の参加者延人数は283人であり、1回の授業の参加者数は9.4名である。常時参加の登録者数が15名であり、出席率は62.6%となった。1年間を通じた青年のみを対象とした教室であることを考えると、高い出席率であるといえる。学習者のニーズとレディネスを汲み取ったカリキュラム編成が学習者の満足度と高い出席率につながったと考えられる。

(3) 今後の改善点について

1. 「できること」の積み上げができる体験学習とする

体験学習で学んだことを次回の体験学習で活用する機会をより多く作りたい。例えば、公共交通機関の利用方法を学んだ後、次回の体験学習で公共交通機関を利用して、集合する。など、体験学習で学んだことが活かせる仕掛けを行っていく。

2. 自律学習の促進

来日してからしばらくして、「進学」や「就職」の道に進む青年が多い。生徒からも「自分で勉強するにはどうすればいいのか」という質問がある。自律学習の取り組みを2017年度から始め、2018年度ではオンラインでの取り組みを考えている。

<取組4>

| 取組4 | 取組の名称 | 公開講座 BAYANIHAN*(バヤニハンプラス) | | | | | | |
|-----------------|---|--|------------------|----------------|---|--|--------------|-------------------------------------|
| | 取組の目標 | フィリピン人をはじめとする「生活者としての外国人」の来日背景や生活状況を、外国人を含めた地域住民と共有する事業とする。当会が培ってきたこれまでの活動のうち、地域に還元できることを広げていく。(基本的には国籍を問わない内容とする) ①地域日本語教室の運営、企画に活かしてもらう。 ②フィリピン人をはじめとする「生活者としての外国人」が、日本で安定した生活を送るためにできることを、多角的に捉えて考える。 ③本取組自体が参加者同士の交流、意見交換、情報共有の場となることをめざす。 | | | | | | |
| | 取組の内容 | ①「浜松に暮らす外国人の在留資格について」(2時間) 講師:平本良一氏(行政書士) ②親子で学ぶ「震災時の対応」+α国際交流(3時間) 講師:静岡県西部地区危機管理課 共催:公益財団法人浜松国際交流協会 後援:フィリピン共和国大使館、在浜松ブラジル総領事館 ③『便利な「スマホ・タブレット」と「ネットコミュニケーション」～安全に賢く使って楽しもう～』(2時間) 講師:小池一男氏(ユービーサポート株式会社) ④「給与明細の見方と年末調整、確定申告」(3時間) 講師:澤谷智志氏(税理士)、湊健一郎氏(社会保険労務士) 共催:公益財団法人浜松国際交流協会 ⑤『電子図書を「借りる」～浜松市の新しいサービスを利用してみよう～』(2時間) 講師:浜松市中央図書館、Media Do 協力:浜松市南図書館、楽天株式会社、立命館大学大学院文学研究科 ⑥自律学習について(2時間) 講師:松本義一氏 | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 空白地域を含む場合、空白地域での活動 | | | | | | | |
| | 取組による体制整備 | 公開講座を通して、様々な機関と連携を図ることが出来た。 | | | | | | |
| | 取組による日本語能力の向上 | 定住外国人の参加者は、生活に必要な情報を知るとともに、テーマに沿った日本語(とくに用語)を学ぶことができた。日本人参加者は、「生活者としての外国人」の現状を把握し、支援のあり方を考える取組となった。 | | | | | | |
| | 参加対象者 | 地域住民、行政、近隣の国際交流協会やNPO職員など | 参加者数 (内 外国人数) | 157 (112人) | | | | |
| | 広報及び募集方法 | 当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人(クチコミ)、フィリピンレストラン、教会など、過去に当会が主催する事業でボランティアした人など | | | | | | |
| | 開催時間数 | 総時間 14時間(空白地域 時間) | | | | | | |
| | 主な連携・協働先 | 行政書士平本良一事務所…6月25日公開講座登壇 静岡県知事直轄組織地域外交局多文化共生課…静岡県西部地区危機管理課への橋渡し(7月16日公開講座のため) 公益財団法人浜松国際交流協会…7月16日、11月26日公開講座共催 フィリピン共和国大使館、在浜松ブラジル総領事館…7月16日公開講座後援 ユービーサポート株式会社…10月21日公開講座登壇 静岡県西部地区危機管理課…7月16日公開講座登壇株式会社アダストリア…11月21日体験学習 税理士法人黎明祖父江会計事務所、社会保険労務士湊健一郎事務所…11月26日公開講座登壇 浜松市中央図書館、浜松市南図書館、楽天株式会社、Media Do、立命館大学大学院文学研究科…2月10日公開講座登壇、協力 浜松市南部協働センター…会場先行予約 | | | | | | |
| 参加者の出身・国別内訳(人数) | 中国 | ベトナム | ネパール | 韓国 | フィリピン | インドネシア | タイ | ブラジル |
| | 1 | | | 1 | 102 | 1 | | 6 |
| | 日本国45人、ペルー国1人 | | | | | | | |
| 実施内容 | | | | | | | | |
| 回数 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 受講者数 | 取組テーマ | 内容 | 指導者名 | 補助者名 |
| 1 | 平成29年6月25日(日) 10:00～12:00 | 2 | 南部協働センター | 18 | 浜松に暮らす外国人の身分資格について | 在留資格のうち身分資格の種類、よくある相談事例 | 平本良一 | 半場和美 |
| 2 | 平成29年7月16日(日)10:00～13:00 | 3 | アイミティ浜松 | 38 | 親子で学ぶ「震災時の対応」+α国際交流 | 1.静岡県発行「命のパスポート」を使った災害時の具体的な行動/2.防災クッキングとフィリピンのデザート「ハロハロ」づくり | 静岡県西部地区危機管理課 | 半場和美、中村グレイス、高井マリ、鈴木エバ、白方ジョイ、杉山シルバーナ |
| 3 | 平成29年10月21日(土)13:30～15:30 | 2 | 福祉交流センター | 29 | 便利な「スマホ・タブレット」と「ネットコミュニケーション」～安全に賢く使って楽しもう～ | それぞれのキャリアの特色を知る、SNS上で起こり得る危険事例を知る | 小池一男 | 鈴木エバ、半場和美、高井マリ、白方ジョイ |

| | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|---|----------|----|---|--|----------------------|---|
| 4 | 平成29年11月26日 (日)13:30～16:30 | 3 | 南部協働センター | 15 | 給与明細の見方と 年末調整、確定申告 | 税金の使われ方、年末調整のやり 方、給与にかかる控除、給与明細の 見方 | 澤谷智志 湊健一郎 | 半場和美 |
| 5 | 平成30年2月10日 (土)13:30～15:30 | 2 | 南部協働センター | 49 | 電子図書を「借りる」 ～浜松市の新しい サービスを利用して みよう～ | 1、浜松市の図書利用カードを作る／ 2①浜松市の電子図書サービスの説 明 ②読み聞かせ | Media DO、浜 松中央図書館 | 半場和美、中村 グレイス、高井マ リ、白方ジョイ、杉 山ダーリン |
| 6 | 平成30年3月18日 (日)13:30～15:30 | 2 | 長上協働センター | 8 | 自律学習について | 1、セルフスタディとは？その意義と 効果／2、自身のスマホやタブレット を使って、日本語学習に使えるアプリ を探す | 松本義一 | 高井マリ |

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

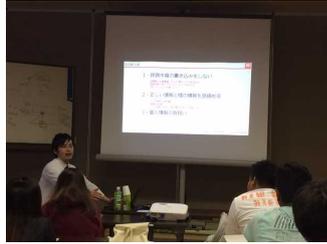
【第3回 29年10月21日】

定住外国人から多く寄せられるモバイルに関する悩み相談に焦点を当てた。

- ◎月々の携帯料金、高額請求、通信の速度制限について、契約時や設定時のポイントをアドバイスしていただいた。
- ◎ネット上のコミュニケーションについては、「浜松で起きた実際のケース」が紹介され、その結果、啓発にもつながった。

◎「次の”3つのポイント”を守れば、SNSは絶対大丈夫！安心して、楽しく使ってください」というメッセージも、力強く添えられた。

①誹謗中傷をしない、②正しい情報とウソの情報を見極める、③個人情報の取り扱いに気を付ける



○取組事例②

【第5回 30年2月10日】

浜松市がこのたび、楽天と提携して電子図書貸し出しのサービスを開始した。「寒い外に出るのが億劫な人」「図書館に行っても日本語の本しかないから、自分には読める本がないと思っている人」「仕事が忙しくて、本の貸し借りのために図書館へ行く時間がない人」など、様々な事情の人を広く取り込めるサービスだ。内容はおもに2つで、前半は図書館のカードを作り、さらに電子図書用のパスワードとIDを発行してもらった。後半は2つの部屋に分かれて中学生以上～大人は電子図書の借り方を、小学生の子供達は南図書館の利用方法と多言語読み聞かせ会を行った。浜松市の図書利用カードを作る際には、申込用紙に名前や住所を書く作業に苦労したが、自分で書き上げて発行してもらったカードを手にした学習者たちはとても喜んでいった。「電子図書の貸し出しサービスの講義」は日本語で説明した後、タガログ語と英語にて手厚い通訳を受けられた。その場で自身のスマホやタブレットを使ってログインすることも体験できた。(この日の様子は湯浅俊彦氏著「ICTを活用した出版と図書館の未来(SMP出版)」にも掲載された)



(2) 目標の達成状況・成果

別紙、参加者のアンケートは提出済。

- ・在留資格のテーマは難しいテーマだが、かみ砕いて説明すること、翻訳を入れることで内容を理解できるという声があった。今後も言葉を翻訳する前のかみ砕いて伝える一工夫を取り入れたいと思う。
- ・親子防災講座は、「講座後、家族で災害時に備えて話し合っておきたい」という声が複数聞かれた。減災への意識が高まりよかった。また、防災クッキングは平常時にも役立つ「簡単料理」なので、今後も他のメニューを共有するなどして情報提供していきたい。
- ・SNS講座は、若者中心に「アップする前に確認してから送信します」「セクシーな写真はアップしないようにします」などの感想があった。この講座が危機管理という点において啓発につながった。
- ・税金講座は、通訳を配置したことが好評だった。また、税金以外に社会保障についての内容は質疑が多く、関心の高さがうかがえた。
- ・電子図書講座は、実際に図書館カードを作ったこと、電子図書に英語があることが好評だった。貸し借りが気楽であり、こうした情報提供は助かるといった声も聞かれた。定住外国人の生活様式を把握し、あらゆる情報とのマッチングに努めたい。

全体的には、ワークショップや体験を取りいれると好評であった。

(3) 今後の改善点について

フィリピンの方たちと近隣住民ともに参加しなくなるテーマや仕掛けづくりを提供していくこと。今年度は参加者の人数に偏りがあった。開催日に「わざわざこの講座のために人を集める」というようにせず、もともと定期的に予定している日本語教室の日に重ねることが参加に結びつきやすい。年間スケジュールの中で計画的に盛り込んでいきたい。

<取組5>

| 取組5 | 取組の名称 | | 成果発表会 | | | | | | | |
|---------------------|------------------------------|--------------------|--|------------------|----------------------|---|------------------------|------|------|--|
| | 取組の目標 | | ①青年の取組について 発表という体験を通して青年の自立と、日本人との交流を目的とする。 ②高畑教授による取組6の調査報告会では、フィリピン人と受け入れる日本社会側の双方に対して、得られた実情や声を公開し、今後のミスマッチを防ぐ。 | | | | | | | |
| | 取組の内容 | | いずれも年度終盤に、一般公開で実施した。 ①青年たち自ら学習や活動の成果発表を行った。 ②「定住外国人の生活と雇用に関する調査報告会」…取組6の調査について、得られた結果の報告 | | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> | 空白地域を含む場合、空白地域での活動 | | | | | | | | |
| | 取組による体制整備 | | おもに②調査報告会を通して、様々な機関に広報協力を得た。 | | | | | | | |
| | 取組による日本語能力の向上 | | ①青年の取組発表では、体験学習を通して得たことを日本語で発表した。発表のためにポスター制作をして丁寧体の日本語を学んだ。 | | | | | | | |
| | 参加対象者 | | 地域住民、行政、近隣の国際交流協会やNPO職員など、国籍問わず | 参加者数 (内 外国人数) | | 67名 (12 人) | | | | |
| | 広報及び募集方法 | | ハイスニュース、ナガイサHP、ナガイサ広報誌、磐田国際交流協会広報誌、新聞社など | | | | | | | |
| | 開催時間数 | | 総時間 5 時間(空白地域 時間) | | | | | | | |
| | 主な連携・協働先 | | 浜松市国際課、公益財団法人浜松国際交流協会、一般社団法人磐田国際交流協会、企業(東京都、静岡県、浜松市に所在地)、マスコミ(NHK浜松、静岡新聞社、毎日新聞社)など | | | | | | | |
| 参加者の出身・国別内訳 (人数) | | 中国 | ベトナム | ネパール | 韓国 | フィリピン | インドネシア | タイ | ブラジル | |
| | | | | | | 12 | | | | |
| | | 日本国55人 | | | | | | | | |
| 実施内容 | | | | | | | | | | |
| 回数 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 受講者数 | 取組テーマ | 内容 | 指導者名 | 補助者名 | | |
| 1 | 平成30年3月10日 (土)10:00~12:00 | 2 | 南部協働センター | 57 | 定住外国人の生活と雇用に関する調査報告会 | 高畑幸氏「静岡県西部地区のフィリピン人状況」/山川氏「製造業における外国人雇用の重要性~チームプレイのためのコミュニケーション能力の必要性~」/横溝氏「天竜厚生会の雇用に関する取組」/福田氏「外国人社員の活躍実例紹介」/松本氏「定住フィリピン人の若者の状況」 | 高畑幸、山川義之、横溝智子、福田寛、松本義一 | なし | | |
| 2 | 平成30年3月17日 (土)10:30~13:30 | 3 | 浜松市多文化共生センター | 10 | 29年度の取組成果発表 | ポスター展示、発表 | なし | なし | | |

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【30年3月10日】

概要

①企業向け調査

- ・目的: 浜松市内に拠点を持つ企業における外国人雇用の実態と今後の採用計画、外国人への期待を明らかにすること。
- ・調査対象: 一般財団法人・静岡経済研究所発行「2017年版 静岡県会社要覧」から以下の3条件で抽出した311社。
浜松に拠点を有する／従業員数20人以上／製造業／農林・水産養殖業／鉱業／建設業／輸送業／飲食店・宿泊業／医療・福祉・介護／教育・学習支援業
- ・調査方法: 郵送法。紙媒体の調査票を郵送し、ファックスで回答を返送してもらった。
- ・回収: 311社中187社(回収率60.1%)

②フィリピン人調査

- ・目的: 浜松市内在住のフィリピン人がそれぞれの能力を生かして仕事をできるよう、彼(女)らが持つ能力や希望する職種を把握する。その上で、日本語や職業訓練等のニーズを把握すること。
- ・調査対象: 浜松市または近隣の市に住む15歳以上のフィリピン人。永住、定住、日本人の配偶者等など、定住できる資格を持っている方(技能実習生、留学生は対象外)。
- ・調査方法: 対面的記入法、留め置き法(紙媒体の調査票をフィリピン食材店等に置かせてもらい、後日回収に行く)。
- ・調査票の言語: フィリピン(タガログ)語。
- ・回収: 231票(うち有効票215)

この調査の結果について、静岡県立大学国際関係学部の高畑准教授から下記の通り、説明した。

- ・今回の調査回答者は永住者の女性が多かった多かったこと
 - ・半数近くが日系人だったこと
 - ・今の仕事への就職経路は、知人や家族の紹介が圧倒的に多かったこと
 - ・調査回答者のうち37.6%の人が普通自動車免許を持っていること
 - ・自身の日本語に対する評価は、聞くことはできるけど、話すことは苦手。読み書きはもっと難しいと感じていること。
- など。

次に山川様(杉田工業株式会社)から、「製造業における外国人雇用の重要性～チームプレイのためのコミュニケーションの必要性～」というタイトルで、話をしていただいた。日本語だけできても現場では難しいと感じていること(数字の理解力も問われる)。いっぽうで日本人が求人にも集まらなくなっているの、外国人従業員の取り込みも必要になっていることなど、現状を聞かせていただいた。

社会福祉法人天竜厚生会の横溝様からは、EPAと定住者の雇用環境の違いから、定住者の雇用については長く雇用してもらうためには自社でのケアが必要であり、その実際の取組事例や工夫についてお話いただいた。

三幸運輸倉庫株式会社の福田様からは、実際にブラジルの若い従業員の夢(「アサイーというブラジルの飲み物を、日本にも広めたい」という夢)を会社がサポートしたことで、一人前として育てていくことができたし、そういう人材が会社にとっても即戦力になっていったという事例を話していただいた。

最後に当法人の松本から、活動紹介と質疑に答えていった。



○取組事例②

【第2回 29年3月17日】

2017年度の定住フィリピン人青年のための日本語教室の成果発表会を実施した。参加した生徒10名が、1人ずつ参加者の前で、以下の3点を口頭で発表した。

- ①自己紹介
- ②教室で自分が学んだこと
- ③今後の進路



(2) 目標の達成状況・成果

①3月10日の調査報告会
別紙にて提出済み

②3月17日の成果発表会

「定住フィリピン人青年のための日本語教室」参加者が、2017年度を振り返り、自身のことを話す機会を提供できた。当日は多くの参加者があり、大勢の方に取り組みを知ってもらうことができ、フィリピン人と日本人の交流の機会も創出できた。

(3) 今後の改善点について

①3月10日の調査報告会

日本人の採用が難しい中、定住外国人に雇用を拡大しようと考えている企業も増え始めている。けれども企業側としても、どこにアクセスしたら雇用につくのかかわからないといった声が聞かれた。いっぽう、フィリピンの人々の仕事の探し方は圧倒的にクチコミが多い。現在はこうした入口としての採用時のミスマッチが生じている。この点がうまく運んだとしても、採用担当者や日本人従業員とのコミュニケーションに課する課題は残る。長い目でとらえる必要がある。

②3月17日の成果発表会

在籍者数が流動的であるために、各トピックに参加した生徒、していない生徒があり、年度末にポスターを作成することが難しい。次年度は、ポスター作成を各トピックの最後の復習として行うように改善したい。

<取組6>

取組6

| | | | | | | | | | |
|--------------------------|--------------------|--|------|------|------------------|-------|-----------------|----|------|
| 取組の名称 | | 「定住フィリピン人と日本社会をつなぐための調査委員会」 | | | | | | | |
| 取組の目標 | | ①日本語教室に来るフィリピン人を中心に、学歴や職歴、生活様式を知るための調査をする。 ②フィリピン人を受け入れる日本社会側に対して、期待や可能性を問うような意識調査を行う(調査依頼予定:行政、企業、学校等) | | | | | | | |
| 取組の内容 | | ●2つの調査を行った。(①日本企業向け「静岡県会社要覧2017」を元に187社に調査票を送付、②フィリピン人233名にアンケート調査用を手渡して回収した) ●委員会 ①定住フィリピン人に対して調査を行うため指揮をとった。 ②フィリピン人を受け入れる日本社会側に対しての調査を行うための指揮をとった。 ③日本社会における位置づけとして、「定時制高校=外国籍児童のセーフティネット」「外国人=出稼ぎ」と捉えられてしまう現状を打破すべく、調査委員会の設置をもってフィリピン人を安定した形で日本社会に橋渡しするよう力を尽くした。 | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 空白地域を含む場合、空白地域での活動 | | | | | | | | |
| 取組による体制整備 | | 調査を通して、フィリピン人が関わる諸機関と連携を結んだ。(調査への協力、結果の提供など) | | | | | | | |
| 取組による日本語能力の向上 | | なし | | | | | | | |
| 参加対象者 | | 高畑幸、松本義一、鈴木エバ、間淵公彦、中村守孝、松本三知代、加山勤子 | | | 参加者数 (内 外国人数) | | 434人 (232人) | | |
| 広報及び募集方法 | | なし | | | | | | | |
| 開催時間数 | | 総時間 8 時間(空白地域 時間) | | | | | | | |
| 主な連携・協働先 | | フィリピンレストラン、教会、静岡県立浜名高等学校定時制、浜松市に所在地を置く企業187社、フィリピンナガイサ賛助会員企業、静岡県立大学国際関係学部、特定非営利活動法人静岡県西部地区しんきん経済研究所、静岡県立新居高等学校定時制、静岡県国際交流協会など | | | | | | | |
| 参加者の出身・国別内訳 (人数) | | 中国 | ベトナム | ネパール | 韓国 | フィリピン | インドネシア | タイ | ブラジル |
| | | | | | | 232 | | | |
| | | 日本国202人 | | | | | | | |

実施内容

| 回数 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 受講者数 | 取組テーマ | 内容 | 出席者名 | 補助者名 |
|----|-------------------------------|-----|--------------|------|------------|---|--|------|
| 1 | 平成29年6月6日 (火)13:30~15:30 | 2 | 浜松市多文化共生センター | 5 | 調査スケジュール検討 | 委員・事務局あいさつ、フィリピン人調査の基本項目(事務局案)／企業向け、私学調査で明らかにしたいこと／7月の委員会議題選定 | 高畑幸、加山勤子、 中村守孝、松本義一 松本三知代 | 半場和美 |
| 2 | 平成29年7月24日 (火)13:00~15:00 | 2 | 南部協働センター | 7 | 調査項目の選定 | フィリピン人調査の項目選定／企業向け調査の内容、方法検討／私立高校調査の進捗報告／調査スケジュール／11月13日調査委員会予定 | 高畑幸、加山勤子、 中村守孝、鈴木エバ、松本義一、 間淵公彦、松本三知代 | 半場和美 |
| 3 | 平成29年11月13日 (火)13:00~15:00 | 2 | Any | 7 | 調査進捗報告 | 調査状況説明 | 高畑幸、加山勤子、 中村守孝、鈴木エバ、松本義一、 間淵公彦 | 半場和美 |
| 4 | 平成30年2月6日 (火)13:30~15:00 | 2 | Any | 6 | 調査報告会の内容検討 | 調査報告会で明らかにしたいこと | 高畑幸、加山勤子、 中村守孝、間淵公彦、松本義一、 松本三知代 | 半場和美 |

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【29年7月24日】

・フィリピン人に対する基本調査項目の検討

※正社員採用を目指すものではなく、現状の仕事の探し方と就職の幅を広げることに主眼を置く(日本人が仕事を探すときと同じような情報が耳に入って、選べる環境が本人側にも整っているかどうか)

・企業向け調査の内容、方法検討

※対象: 静岡銀行の経済研究所が発行している「2017静岡県会社要覧」から市内の300社くらいに絞る。得られた調査結果について、「●%回収できた」という実態把握が必要。そのため、最初から調査先の職種を決めすぎないこと。／実態調査として全体の概要を見て、この調査により関心を持ってくれた企業さんには別途詳しくヒアリング調査をさせていただく機会を設ける。／調査を補足するごく簡単な添付資料が必要…企業側が外国人の置かれている状況をあまり知らないということもあるので(在留資格と就労できる職種の関係・浜松に暮らす外国人の特色・助成金の説明をすることで、企業側に気づきを与える「そんな助成金があるなら、外国人雇用してみたい」と思えようなもの)／調査票は郵送で、返信はファックスで／

・私立高校向けの調査、進捗報告

・調査スケジュールの設定

○取組事例②

<フィリピン人向け調査>

・目標200あれば望ましい。(1月下旬までに回収を終える) 東区、浜北区に日系人の大きな一族が複数あるのでそちらを集中的に実施する。当法人が主催するイベントや教室以外でも、積極的に回収を図っていく。→お誕生日会、教会、バスケットボール大会、フィリピンレストラン、飲食店に勤める女性など

<私学調査>

・私学調査の状況、報告(事務局)

<3月10日の調査報告会について>

先行投資として人材育成をして、うまくいったような会社があれば登壇してもらおうとよい。外国人採用に悩んでいる会社にとってヒントになるような報告会にするとよい。「フィリピンの方の実態がわかる」というのはフィリピン/ナガイサが主催する報告会の強みであるので、フィリピン人でイキイキと働いている人にも登壇してもらったらどうか。登壇してもらうことで、「どんなサポートがあれば、外国人も働きやすいか(雇用に結びつか)」を伝えることができる。生活者で介護職に就いたフィリピン人に登壇してもらおうとよい。報告会の落としどころとしては、「こういう付加価値を付けると、外国人の採用に結びつくよ」という告知。(運転免許が取れる支援など)

(2) 目標の達成状況・成果

日本企業への調査について、協力先を探すのには委員の助言によるところが大きかった。調査項目についても高畑教授はじめ、委員の方々と詳細に検討することができた。これにより、実は企業の側も「外国人を採用したいものの、どうやって外国人と知り合ったら良いかわからない」ということがわかった。南米系の人、中国の人は比較的正社員採用が生まれているが、フィリピンの人で正社員採用は少ないこともわかった。今後の採用計画については、a. 今後、新たに外国人を採用したい14(8.0%) b. 今後も継続して外国人を採用したい55(31.4%) c. その予定はない 80(45.7%) d. 今、予定はないが検討したい26(14.9%)となっており、「採用している」「採用したい」「採用検討」をあわせると半数を超えることがわかった。求める日本語能力については、製造業は話す・聞く力を求める会社がとて多かつた。フィリピン人への調査について、本エリアは製造業に従事する人が多いのが特徴である。多くの人の仕事の探し方は知人や家族の紹介によるものであった。そして、「今の仕事に満足、給料が十分だから」と感じている人が多いこともわかった。

(3) 今後の改善点について

調査結果を踏まえ、今後は企業採用担当者とフィリピン人が交流できる場を広げていく必要を感じた。フィリピンの人についていえば、就職に関する情報があまりないことも考えられるので、日本人が求職する際に得られる情報と同じ量の情報が得られるようなサポートをしていきたい。そのためには情報発信先のハローワークや企業、学校の就職課などに協力を得ていくことも必要になっていくと考える。

私学調査については、高校側が「外国人だからといって特別扱いはしない」という対応のところが多く見られた。日本語ができないのならば困ると少し躊躇されている学校や、外国籍児童の存在をあまりよく知らない高校もいくつかあった。よって日本語ができず、学校の授業についていけない子供達の進学先として、定時制高校に集中しているのが現状である。私立高校にも理解を示していただき、外国籍児童の新しい進学先の広報になればよいと思う。そのほか、進学のための資金の点では制度でもサポートされていくとよい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ① 散在している地域の課題に対して、地域で活躍できるバイリンガル人材を輩出すること(国籍問わず)。業務を遂行するため、日本語による読解力と叙述力をトレーニングすること。
- ② 永住、定住傾向にあるフィリピン人に対して、「日本語学習」に加えて「生活情報」が得られるようにすること。
- ③ 「生活者として」の新しい層であるフィリピン人青年(以下、定住フィリピン人青年)の将来を見据えた支援につながるよう、日本語学習とあわせて体験学習を取り入れること。また、各学習者が自身の限られた時間を活用し日本語学習ができるよう、自律学習の方法についてもアドバイスしていくこと。
- ④ これまで連携してきた人や機関とともに培ってきたノウハウを地域に発信し、還元すること。連携により広がりを持たせること。
- ⑤ フィリピン人のレディネス把握と集まった声を集約するいっぽうで、日本社会側に対しても受け入れに関する意識調査を実施すること。双方の事情や声を整理し、定住フィリピン人がコミュニティ内に埋没するのを防ぐこと。
- ⑥ 時流の中で求められる「生活者としての外国人」を取り巻く課題について対応するため、事業費の安定的な確保を検討していくこと。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

全取組を通じて、定住フィリピン人に必要な日本語学習、情報を提供できた。母語を介して学習のニーズを聞くことが出来るので、年度ごとに関わる学習者にあわせて、きめ細やかに対応することができている。日本語学習の機会については、限られた時間で最大限の提供ということで場面シラバスや体験学習でカバーしているが、これも当法人に関わる学習者のニーズと生活様式にマッチしているようだ。また、調査については雇用状況に限らず、定住フィリピン人における日本や母国での生活様式の傾向を知ることが出来た。これまで活動の中で感覚的に把握してきたことを、数字としてデータで把握できたことも大きい。得られた結果は、将来設計のアドバイスや今後の活動方針にも大いに役立てることができそうである。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

全取組を通じて、様々な機関や人に登壇してもらうことができた。ファイナンシャルプランやSNS講座は初めて取り上げた。また、減災について静岡県西部地区危機管理局に登壇をお願いしたが、静岡県発行の「命のパスポートを使った講座の依頼は初めて」ということで、減災について新たな視点で、端的に呼びかけることができた。さらに、今年度は雇用に関する調査を通して、地元企業との連携を強め、周知を図ることもできた。「賛助会員になるにはどうしたらよいか」「フィリピン人を雇用するためにアドバイスをもらいたい」という問い合わせが相次いだ。

(4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・参加者への周知・広報で努力した点はマスコミを介して、広く情報発信をしたこと。
・事業成果については当法人がもっているホームページや、会報誌に取り上げた。また、新聞社やテレビ局からの取材依頼についても積極的に応じた。
・連携については今後、時代にあわせてSNSを使うなどツールを広げていくことにする。これまで広報発信していたホームページの公開をFacebookと連携することにより、活動を多くの人々の目に触れるように配慮する。

(5) 改善点、今後の課題について

・ここ数年、あまり解決に至っていない大きな課題は、キーパーソンの後継が不足していることと、現役の方たちのスキルアップの場がないことである。行政主導で人材育成がなされ、継続的に安定した人材を確保できる環境が地域に整うと良い。
・近年、SNSの急速な発展により、フィリピンナガイサとしても把握できない層やコミュニティが存在している。そうしたウェブ上のコミュニティとどうやって繋がっていくかが新たな課題として浮上している。

(6) その他参考資料

アンケート・チラシ・新聞記事、運営委員会議事録